

§5 よどじまん(人物編)

このコーナーでは、淀川区がほこるもの、じまんしたいものをご紹介します。

1. 神田 和幸 さん(加島)

みなさん、ピンホールカメラって知っていますか？レンズを使わずに、わずか0.2mmの穴を通して描かれる芸術作品。別名「針穴写真」とも呼ばれています。神田さんは、そのピンホールカメラの世界ではかなりの有名人。なんと「文部科学大臣賞」を受賞されているんですよ！すごいでしょ～！じまんしたくなるでしょ～！！



左の写真は、賞を獲得した4枚のうちのジェット機の作品です。

それまでピンホール写真の世界では、動く被写体は撮れないと言われていました。しかし、そこが神田さんのすごいところ。「不可能を可能に変えることに人生の面白さがある！」と果敢に挑戦し、見事に実現しました。

お仕事もまだまだ現役の64才。「どんどん海外に出て、そのすばらしさを広めたい。」と夢はどんどん広がります。「最近ますます心が若返ってきている」と、本当に楽しげにお話いただきました。

2. 上野 義昭さん(十三本町)

みなさん、右の写真の場所がどこか分かりますか？タイムスリップしたかのようなレトロな空間で、厳しい目をした『匠』が、静かに作業に打ち込んでいます。

十三本町1丁目で二代続く「桶」職人の上野さん。先代のお父様が昭和の初めに開業され、上野さんが引き継ぎ半世紀あまり。加工と乾燥を繰り返し、ひとつの商品を作るのに、約2ヶ月。実用品とはいうものの、見せていただいた商品はまさに芸術品…

今の子ども達にとっては、「桶」ってあまり知らない物かもしれませんね。桶って聞くとお風呂のイメージが湧くかと思いますが、



お寿司の桶や、ご飯の桶など色々あります。

匠が一番こだわる商品は、やはり風呂桶だそうです。今はほとんど需要がないそうです。そう静かに語る目の奥に、少しさびしさを感じました。



編集後記

YODO-REPO は電子情報を中心に編集しています。インターネットをご利用でない皆さんのため、政策企画課(区役所5階)で資料を開架しています。

なお、記事内容に関するお問合せは、政策企画課まで 電話：06-6308-9405